

新型コロナウイルス感染症に関わる 水海道ロータリークラブにおける危機管理について

水海道さくら病院 理事長 廣井 信

はじめに

COVID-19 (SARS-CoV-2) パンデミックの状況は、10月6日現在、第2波の減衰期を迎えています。これに伴い Go to キャンペーンをはじめ、経済活動の再開を促進する様々な施策がとられるようになりました。

第1波（概ね3月23日～5月12日）と第2波（概ね7月1日～現在）では様々な現象が大きく異なっています。

罹患数が多いのは圧倒的に第2波ですが、これはPCR検査数が増えたことにより陽性者検出数が増加したからです。

しかし、入院症例数、死亡者数に注目すると圧倒的に第1波のほうが多く、第1波入院症例（3,775名）における入院日数の平均値は7.7日だったのに対し、第2波（2,276名）では5.1日と減少しています。第2波では一見軽症化しているようにみえます。

登録症例数における年齢別のピークは第1波では50～60歳台であったのに対し、第2波では20～30歳台と若年化しています。武漢からの帰国チャーター便やクルーズ船のクラスター感染者の年齢層は高く、年齢が高ければ併存疾患の合併も多いので第1波では重症例が多かったと推定されます。

ロータリークラブの特性

①高年齢者層が多い（持病を持っている率が高い）→もし感染したら重症化するかもしれない

②一方で、ロータリークラブ会員の皆様が常識、良識、高い知識を持ち合わせている方が多い→今、夜の“三蜜”に出かけている人はまずいない

③体調が悪いのにわざわざ例会に出てくる人はまずいない

④現在の例会を見てもマスク着用、ソーシャルディスタンス確保は守られている

危機管理

①三蜜回避の原則

②日常生活におけるマスク、手指消毒などの衛生面ルーチンの継続

③例会時の検温？（良識ある会員の皆様の現状をみると必ずしもその必要はない、と考えます）

④例会開催の頻度や宴会の開催については世の中の感染状況の動向を把握するとともに、他のクラブがどのようにしているか情報を共有し、平均的な方策をとる、ということによりかと思われます。

以上、新型コロナに関する危機管理の初回会議に際して、思い浮かんだことを述べさせていただきました。回を重ねて様々なご意見を集約していただければと存じます。

第1回 危機管理委員会

令和2年10月7日（水）例会終了後 於：開山堂

例会当日

家で37.5度以上ある場合は欠席

例会場

検温と消毒のご協力をお願いします。

会員（近親者等）がコロナに罹患の場合は幹事まで連絡（必須）

連絡先 090-3472-7561（五木田裕一）

*プライバシーの保護は致しますが、危機管理委員会内で情報を共有し、外部には漏らさないことを約束致します。

緊急時には、危機管理委員会は理事会の決定を待たずに対応策の決定を行います。